



北海道女性医師史編纂刊行委員会

『北の命を抱きしめて』 北海道女性医師のあゆみ

日本医学学会評議員
北海道医史学研究会代表幹事

島田保久

平成18(2006)年5月17日、北海道女性医師史編纂刊行委員会(委員長 斯波憲子)から『北の命を抱きしめて』副題「北海道女性医師のあゆみ」が刊行された。B5判280頁の大冊である。

本書は第1章北海道の医師と医療、第2章バイオニアの女性医師たち、第3章地域に根ざした女性医師たち、第4章語り合う女性医師たち、第5章資料、第6章年表の6章から成り立っている。

第1章の「医師と医療」は本書の総論ともいえるもので、北海道史の著名な研究者である佐藤京子氏が執筆している。明治期の北海道の医療について資料を発掘調査し、それを50頁にまとめ、さらに章末には93にのぼる参考文献をあげている。北海道の明治期の医療史を研究する上での基本資料になるものと思われる。

第2章は「バイオニアの女性医師たち」で、本書の導入編ともいえるものである。執筆した海保洋子氏、広瀬玲子氏は佐藤氏と同様に北海道史の大家である。女性医師第1号といえは荻野吟子、そして北海道の瀬棚である。荻野吟子についてはすでに書き尽くしているように思われるが、いまだ不明なことも多い。荻野吟子について今までとは異なった視点に

立って論述している。荻野吟子のほかに三野嘉寿井、間宮八重、早坂チカ、神山超子、隅田マツ、潮エイ、岡田美壽代、黒瀬友代、小城ヨシ、榎山キミ、奈良トメ、小川いちの12人について記述している。女性医師の第一世代ともいえる方々で、現在では考えられないような苦勞をしながら地域医療に従事した。

第3章は「地域に根ざした女性医師たち」である。女性医師として第二の世代ともいえる。女性医師が困難に打ち勝って、地域に受け入れられていく過程の記述である。

第4章は「語り合う女性医師たち」である。女性医師についての過去、現在を講演会、座談会を通して語り合っている。

第5章は「資料」である。日本女医会北海道支部の誕生について知ることができる。

第6章は「年表」である。詳細な項目であり、資料として参考になるものが多い。

女性医師第1号の荻野吟子が来道して瀬棚で開業して以来、女性医師が道内にて医療に従事するようになった。しかし社会的に受け入れられるには苦難の道を歩まなければならなかった。北海道の女性医師の歩みを記述した本書は北海道の医療史の空白部分を埋めるものであり、基本資料として必読の書となるであろう。医学を志す女性、女子医学生、医療関係者、そして一般の方にも推薦したい。